

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392500049		
法人名	有限会社 ひまわり		
事業所名	認知症グループホームひまわり		
所在地	熊本県熊本市植木町山本886-1		
自己評価作成日	平成23年9月7日	評価結果市町村受理日	平成24年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4392500049&amp;SCD=320">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4392500049&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成23年9月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のいままでの人生で培った価値観・人生観を尊重する介護を目指しています。ちいさな家であることを目指して今までの生活習慣を大切に、入居された方が安心して生活が出来るように本人や家族からの情報を元に個別対応を心がけています。利用者様の希望、要望に柔軟に対応し利用者様の人生の中で喜び、楽しみのある機会を多く作れるような支援に努めています。また、地元の人々とのつながりを大切に、地域のイベントなどに積極的に参加し地域との交流を深めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“施設長は動く広告塔”何事も施設にとって良いと思う事には常に積極的に行動されている。「基本理念」に基き利用者のこれまでの人生を尊重してみんなが安心して暮らせるホームであることをモットーに、全職員が一人一人に向き合い寄り添ったケアを行ない、家族との信頼関係の構築に努められている。また、働きやすい職場環境づくりを心がけ、職員が目的(資格取得等)を持って働けるようにスキルアップの為にチャンスが提供されている。また、施設長自らが地域行政や他の機関へ出向き、施設の理解とPRに努め、行政からの要望にも応え「認知症サポーター養成講座」をボランティアで開催している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示しており、毎月開かれる職員勉強会でも唱和している。	具体的に分かりやすい理念の基、利用者に安心した暮らしを提供する為、職員は利用者を知ることに努め、これまでの人生の歴史を大切に個別プランに活かしている。年2回は理念の言葉の背景について研修する機会を設け、全職員が理念の共有と実践に向け日々努力している姿勢が伺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中学校の体育祭や文化祭に招待して頂いたり、保育園からの慰問などの交流がある。	学生の職場体験等を受け入れ、運動会・文化祭や、保育園の行事参加をデジタルフォトスタンドで写し出し、日頃の利用者の様子や行事等の状況が動画で見られる等の工夫を凝らし、ご家族や利用者から好評を得ている。また、管理者は認知症サポーターの養成講座の講師を務め、認知症への正しい理解に力を入れて指導する等、地域への貢献も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成に力を入れ、全職員が研修を受けるとともに、地域においては全小学校区(7区)で養成講座を開催し、その講師を務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、入居者の生活状況や事業所の取り組みについて報告し、出席者の意見を聞いている。	会議では包括支援センターや民生委員、社協、家族代表、職員の参加を得、施設の運営状況・活動報告が行われ、地域の声や提案等について活発な意見交換が行われている。行事報告等では写真を使った説明なども行い好評を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。	運営推進会議への参加や「認知症サポーター養成講座」は行政からの依頼でボランティアで開催。また、地域の高齢者の問題事例報告をしたり、行政からの相談に対応するなど、日頃から行政との連携協力関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修に参加している。今後職員勉強会にて研修実施予定。玄関の施錠は行わず、気分を変える様な声かけ、見守りをしている。しばらく一緒に散歩をするなどしている。	利用者の思う「生きる喜びを」大切にされた支援をするという基本理念の基、一人ひとりの人格を尊重する立場に立って身体拘束、虐待の防止の徹底を図る研修を行っている。今後は地域の中で家庭内暴力や虐待防止の働きかけを実行する施設としての役割も考えており、今後の活動大いに期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今後、内部研修にて実施予定		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	熊本県権利擁護推進員であり、成年後見人も務めていることから、人権・自己決定の取り扱い等について各ケースごとにOJTを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、対象者やその家族との最初の共同作業になるため、信頼関係を築くための大切な時間となる。その事を認識して、必要書類について十分に説明を行い、家族などからの質問にも丁寧に答えながら信頼関係の構築に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中に家族代表者に入ってもらい、適切な運営と改善等についての意見をもらっている。	介護者のプロとして、対応の方法はひとり一人違って当たり前を基本としており、その人の思いを汲み取り、人生観や経験を個別に聴き取っている。家族には訪問時や計画の見直し時に機会をとらえて利用者情報を聞き取り、利用者が安心して暮らせる環境づくりに努め、意見や思いを反映するよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、業務会議を行い、職員からの意見、提案を聞く機会を設けている。必要時には、個別面談の機会も設けるよう取り組んでいる。	毎月の会議やミーティング時に職員の意見を聞き、全体で検討し、より良いケアに向け対応している。また、職員の個別面談の機会を設け、本人から直接希望や要望を聴き、勤務形態の変更をする等、働きやすく、やりがいのある職場環境整備と、資格取得のための研修参加等、働きながらスキルアップが可能な対応が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の生活背景を理解し、勤務時間を短くしたり福利厚生の充実を図るなど就労環境の整備に努めている。また、個別目標シートや個別評価を実施し、適切な評価を行い賃金に反映させるなど実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	組織内研修を毎月実施し、外部研修についてはその他の施設等と連携しながらセミナーを開催したり、400人程度参加する研究会での発表等も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際に、同業者と交流する場を得ている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を元に、声かけ、傾聴し、安心して生活できる様に支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、ご家族が困っていること、要望等をしっかり聞いて、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行う事で取組の優先順位が明確になる。家族の同意を得ながら、外部との交流も積極的に実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や調理などの家事を、スタッフと一緒に、共に生活し、支え合うもの同士の関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際は、施設での生活状況や、問題点など報告・相談し共に本人を支えていく関係づくりに務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの場所に定期的にお連れし、関係が切れないように支援している。	本人の希望に合わせ、行きつけのスーパーでの買い物等、顔なじみの人とおしゃべりや馴染みの美容室でおしゃれを楽しむ等、馴染みの場所や人との関係が続くように配慮されている。入居者同士も仲が良く、家族も遊びに見える等、入居者同士や家族同士の繋がりが密にはかかれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察し、会話に入れない入居者の方には、さりげなく声をかけ輪に入れるように配慮したり、不穏な入居者の方には、スタッフからだけでなく仲の良い入居者から声をかけて頂いたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中はお見舞いに行ったりしながら、状況・状態の把握に努めている。その中で、次の施設が決まったりする情報を得ることがあり、そのような際には、迅速に情報提供の準備をするなど家族も支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から、本人の思いや意向を聞いて、スタッフで話し合い、本人の思いに添ったケアが出来る様努めている。	日常の会話や家族からの情報で、入居者の背景を知る努力をし、本人の言動から思いや意向を汲み取る努力が行われている。アルバムの写真を見て思い出話が出たり、編み物の上手な方が椅子の足カバーや帽子のプレゼントする等、楽しい光景が見られた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族よりお聞きした情報をまとめ、情報の把握に努めている。センター方式も使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し記録に残し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、当然様々な情報をもとに作成しなければ、独りよがりのケアプランになってしまう。その為、特に入居されてからの半年間は本人や家族との情報のやりとりを綿密に行い、ケアの優先順位を検討しながら介護計画を作成している。	介護計画は本人・家族と話し合い、情報交換を密にしながら、生きてきた背景を考慮したうえで、本人の希望に添った計画づくりをしている。また、職員の思い込みで計画を立てないように、日々の記録を基に見直しを行い、ミーティングで職員同士が情報を共有。その都度本人の希望や家族の意向を確認しながら、臨機応変に対応できる体制にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録にまとめ、それを元に介護計画の見直しを行っている。又、申し送りノートの活用、業務ミーティングでのケアカンファレンスなどにより、職員間での情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族の意向をその都度確認し、その時々ニーズに応えることが出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人がよく行かれていたお店などにお連れし、楽しんで頂けるように努めている。また、地域での催しなどに積極的に参加し、地域との交流の場を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診について、家族や本人の同意がなければ後に問題になりやすく、必ず家族・本人が望まれた医療機関の受診を行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医を利用している。疾患のある入居者については、職員が対応する手順を見やすい所に貼り、個別対応の工夫が見られた。日頃は、医師の指導のもと、看護師が職員へ伝える手順が決めてあり、緊急時の対応は、主治医へ連絡し、指示を得ながらの対応となっている。尚、近くの病院からの協力が有り、本人、家族、職員の安心の裏付けとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中での気づきを記録に記載し、看護師に報告・相談し連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の地域連携室や外来・病棟師長クラスとの情報交換を積極的に行い、お互いの利用者についての適切な処遇について話し合う機会を持つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期医療について、病院が母体ではなく、医療行為が法的に認められていない中で、施設として出来ることと出来ないことの範囲について家族に説明している。その範囲の中で、地域の協力医や訪問看護等と連携しながら出来る限りの対応を行っている。	終末期の対応については、現在対応できる範囲内で本人と家族に説明し、地域の協力医やスタッフの連携をとり、出来る限りの対応実施をしているが、グループホームでの看取りは難しく、将来的には看取りのケアも考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一年に一度は植木消防署の救急隊員が講師となり、救命救急の勉強会を行っており、その他、事故発生については毎月の定例勉強会の中に予定を組み込んで実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回実施しているが、そのうちの一回は夜間想定訓練を、植木町消防署の監督の下実施している。	年間2回の訓練を開催。うち1回は夜間を想定して救急法の指導等、消防署の協力を得て実施している。地元消防団や地域住民への協力依頼は出来てないが、消防署がすぐ近くにあり災害時はすぐに駆け付けられる状態にある。	消防署が近くにあり安心だが、実際災害発生時はどうなるか。実施訓練を含め全員で体験することも必要と思われる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを理解し自尊心や羞恥心をどう受け止めていくのか、言葉遣いや、非言語的コミュニケーションに着目しながら尊厳のあるケアを実施している。	基本方針に「本人の意思や人格を尊重して、常にその立場に立って生活を支援します」と謳われ、機会ある毎に話し合い、人生の先輩であることを念頭に、その人に寄り添い丁寧な言葉かけ等、詳細な心配りが実践されている姿がみられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	感情の表出の少ない方には2択にして選び易い様にしている。又、せかさずに待つケアを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは決めず、出来るだけ入居者の意向に沿って、その人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、誕生会や外出時には化粧を手伝ったり、綺麗な洋服を着てもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたいものを献立に取り入れたりと、食材の下ごしらえ、盛り付けなど、出来る方には、積極的にして頂いている。	献立は管理栄養士に依頼し、調理担当者が調理。入居者の手伝いは、個人用の湯飲みや箸、小鉢等をお盆に並べる姿が見られた。食事を楽しくするため座席に気配りし、入居者同志で声かけながら食事を進めている様子がほほえましかった。食後の薬は職員間で確認し本人にも名前を、確かめてもらう等、細心の注意が払われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、記録に残し、必要な栄養・水分の確保が出来る様に支援している。特に水分摂取量の管理が必要な利用者に対しては細かく摂取量の確認を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。仕上げが必要な方には、一部介助にて仕上げを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るよう、トイレ誘導や声かけを行うなどしている。	各部屋にトイレがあり、排泄の自立継続が出来ている。ウオッシュレット付トイレで介助の必要な人への支援がゆっくり対応され、便秘対策についても薬物使用を避け、植物繊維の多い食事や散歩などを取り入れ、自然排泄の支援が心がけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳や乳製品の飲み物をお出しし、食物繊維の多い芋の料理をおやつに多めに取り入れている。体調に合わせて適度な運動を一日の活動の中に取り入れるよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、入浴日を決めているが、本人の体調や希望によって、曜日や時間をずらすなどして柔軟に対応している。	午前午後に分け週3回の入浴となっているが、本人の希望に添って好きな時間に気持ち良く入浴できるように対応されている。同性の介助を心がけ、季節によってゆず湯や菖蒲湯の工夫も施されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度な運動や活動を取り入れ、メリハリのある生活リズムを作ることを心がけ、夜間の安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬剤情報提供書をファイルし、その都度目的や副作用を確認できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や職歴などの情報収集を行い、やりがいや喜びを感じて頂く事の出来る役割活動やレクリエーション活動を心身の状態に合わせて一日の活動に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的買い物にお連れしたり、食材の買い物にお連れしたりしている。涼しい時間帯には、施設周辺に散歩に出かけている。	買い物が好きな人は買い物へ、馴染みの商店に行きたい人は商店に定期的に出掛けたり、また、近くへ散歩に行ったりと楽しんでいる。また季節によって菖蒲、藤、桜等の花見や阿蘇へのドライブ等の楽しみも取り入れられている。利用者が安心して落ち着いて仲良く暮らせるように、本人の希望や思いに添うよう職員も共にゆっくりと過ごすことが心掛けられている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	金銭の管理が可能な利用者については、決まった金額を自己所有とし、買い物の際も自立支援を行っている。管理が困難な利用者については職員管理とするが、買い物の際等には、本人の理解と同意を得る働きかけを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には必要に応じて電話が出来るような支援をしている。手紙などの代読や代筆なども行い本人・家族・友人などとのやりとりの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物は季節感のあるもの、また季節の花を飾るよう心掛けている。フロア内に音楽を流し心地よい環境づくりに取り組んでいる。又、気温に応じ、随時施設内の温度・湿度調整を行っている。	天井は高く、明るいフロアには空気清浄機が付けられ、デジタルフォトスタンドによる動画で思い出に出会える等の工夫が見られる。フロアや廊下には好きな場所で過ごせるようソファが置かれ、一人で過ごすために椅子を外向きに設置する等、心づかいが見られた。ミニ菜園にはひともじ・大根葉・ホウレンソウ等を植え、収穫する楽しみと食べる楽しみが盛り込まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席順を配慮したり、ソファを設置して一人になることも可能な場所を作っている。フロアから離れた静養室へ誘導することもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を持ち込んで頂いたり、安全に過ごせる様、家具の配置を考えたりしている。	ご先祖様と共に入居されて人もおり、仏壇や親族の写真や思い出の品が置かれ、仏壇の花変えや水やりが、毎日の日課となっている。自分の家がそこにあり穏やかに過ごせるような配慮も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干し、たたみ、や食事の準備等の家事は、出来る方には積極的に頂く様、声かけしている。バリアフリーとし、家具の配置を工夫するなどして安全に過ごせる環境づくりを行っている。		